

やさかだより 3

No. 71

八坂地域づくり協議会

<http://www.shinshu-yasaka.com/p20.htm>

2019 3. 1



3月号の記事

地域づくり協議会の活動から	2
地区の活動から	3
地区の活動から・たけのこ保育園	4
八坂小・中学校から	5
山留の風・コミュニティスクール	6
コミュニティスクール・八坂公民館	7
きらり話題の八坂人	8



新春1月12日、八坂公民館・八坂地区子ども会育成協議会主催の第39回「かるた・もちつき大会」が開催されました。地域の方々や小学校の先生方の協力もあり、おもちつきと、「八坂郷土かるた」と「大町民話かるた」の2種類を使ったかるた大会で楽しい一日となりました。

(P.7 八坂公民館の活動の記事あり)

八坂地区の人口：845人
(男417・女428 高齢化率35.6%)
八坂地区の世帯：363世帯
(平成31年2月1日現在)

地域づくり協議会の活動から

【協議会日誌】

期 日	区 分	内 容 等
1/11	第 5 回地域振興検討会議	・ 中間報告書について
1/13	大町市消防出初式	・ 自主防災会、日赤奉仕団参加
1/16	やさかだより編集委員会	・ 3月号の編集について
	大町地区交通安全協会役員会	・ 総会について
1/24	明野太陽光に伴う委員による現地調査 明 野 太 陽 光 発 電 に 伴 う 協 議 会 と 住民による説明会	・ 協議会委員と住民による説明会
1/29	第 4 回自治振興会長会議 第 6 回地域づくり協議会	・ 自治組織の在り方、空家調査結果について ・ 定住促進住宅候補地について ・ 地域振興検討会議の中間報告について ・ 敬老会について
2/19	第 6 回地域振興検討会議	・ 報告書について

地域振興部会 田舎暮らし体験ツアーIN 八坂



1月5日・6日に田舎暮らし体験ツアーとして今回はどんど焼きを体験していただきました。残念ながらキャンセルもあり当日参加されたのは1組のみとなりました。

1日目は、横瀬集落のどんど焼きの準備から参加していただき、新年会と、どんど焼きの点火まで参加していただきました。横瀬集落の皆さんの協力のおかげで、参加されたご家族にとっても喜んでいただきました。6日の日は野平のどんど焼きの準備を見ていただき、定住促進住宅のお宅拝見ということで、奥澤靖一郎さんのお宅を訪ね、経験談や苦労話をお話していただき、お子さんには北澤豊繁さん手作りの「竹スキー」を保育園の園庭で楽しんでもらいました。

田舎暮らしには大いに興味を持たれたご様子でした。今後は、お試して、宿泊できる施設など考え、定住を真剣に考えておられる方の受け入れを考えていく必要があるように思いました。



空き家の再調査を行いました



大平

地域の空き家住宅を再調査し移住者の方に紹介できる空き家を掘り起こすため自治振興会長会議で空き家の再調査を実施しました。

自治振興会の皆様の熱心な調査の結果、賃貸については9軒、新たにあがりました。

地域の活動にも積極的に参加して、八坂での暮らしを楽しんでくださる方に借りていただければ良いと思います。



石原



舟場

切久保どんと焼きと鳥追い



どんと焼きという行事は自分の故郷である兵庫県姫路市にはなく、少し離れた神社でお炊き上げが行われているのみで、八坂に移住して初めて身近な行事となりました。朝から地区の方々、山留生で竹を切り出して萱を加え、櫓を組み上げて準備完了。夕方から本番スタートで、大きな火柱が上がった後に竹が勢よく音を立てる中、子供達が少しも怖がる事もなく、餅を焼いている事に少し驚きました。恐怖より食欲が勝るのでしょうか。子供達のたくましさを感じるひとときでした。

今年は1月20日に行われた鳥追いは、年始めに害鳥を追いかう呪術的な行事で、以前は各地で行われていたようですが、近年は切久保以外では途絶えてしまっているようです。鳥追い前日の夜には毎年恒例である仲間内の新年会がある為、まだ夜が明けやらぬ早朝に各戸を回る子供達の姿を夢に見ながら「来年こそは」と毎年思いを改めています。

鳥追いという行事が存続しているのは山留生の存在が大きく寄与しているとは思いますが、子供の人数が多い里の地区で途絶えている事を考えると、切久保の方々の伝統を重んじる姿勢が強く表れているのではないかなと感じ、改めて気が引き締まる思いがしました。

切久保 谷林 圭介



野平どんと焼き



野平自治会では1月6日にどんと焼きを行いました。左義長、三九郎、御幣(おんべ)焼き、どんとん焼きとも呼ばれている。朝9時に山村広場横の畑に集合。もう竹が用意されている。今年も、大きくなりそうな予感。子供たちは各家を廻り正月飾を集めます。残った人でやぐらの組み立て、竹、萱等の運搬に別れ作業開始します。

まず、4本の柱を藁縄で括って立てます。横渡しも2段付け、結構頑丈に作ります。中に、茅、わら、松飾り等入れます。わらは丸めたままだと、燃えないので、1束ずつばらし、中に投げ込みます。2階に物を投げるような感じです。

ダルマを掲げ、松飾りは周りに飾ります。今年も、やっぱり大きなやぐらになった。

あまり大きな火になると消防に通報される恐れが…。
昨年は、あまりの火勢に対岸で魚釣りをしていた人から消防に通報され、消防署が出動する騒ぎとなりました。

夕方5時になり、御神酒をいただき、年男年女の人によって火が付き、火が一気に上まで燃え上がる様はまるで龍が天に昇るよう。

書き初めが、天に舞い上がり、一塵の風がさっそうとつむじ風となり天に昇っていく。竹がパチパチと音を立て燃えていく。7時近くになり、どんと焼きの残り火で餅を食べると、その年は風邪を引かないと言い伝えがあり、餅焼網等持参して焼いていました。餅を食べ、三々五々解散しました。皆さん、お疲れ様でした。

野平 佐藤 眞一





中央自治振興会の新年会と「どんと焼き」を1月12日(土)の午後行いました。基幹センターと県道脇の空き地にて、新年会の準備、「どんと焼き」のやぐらの組み立てを同時進行で行いました。昨年11月に刈っておいだ萱や周辺の竹をやぐらの周辺に立てかけるように形にして準備を進めました。一方、新年会の準備は、おでんの仕込みや「ビンゴ」の景品の用意など進めていきました。双方の準備が整った頃合いを見計らって、新年会が始まりました。会場には、おでんや持ち寄った漬物や飲み物が並び和気あいあいのうちに時間が過ぎ恒例のビンゴ大会を行いました。

夕方6時30分頃よりいよいよ「どんと焼き」に点火となり、良く乾燥していた萱が勢いよく燃え上がり、竹が割れる音とともに周りに響き渡り、子供たちの歓声が印象的でした。

新規就農者を募集しています！

八坂切久保地区には、新規就農者が宿泊して農業技術を習得するための施設があります(住宅兼作業所)

施設の名称及び位置

「新規農業者技術習得管理施設」

八坂 8474 番地 7

延べ床面積 114.4 m² 木造平屋(農具格納庫 2・休憩室 2・資料室 1・食堂兼作業準備室 浴室・トイレ・洗面所)

敷地面積 478.88 m²

対象者 新規就農者 市外に在住する者で新たに市内に移住し市内において農業を主たる業として行おうとするもののうち、農業研修を行うものをいう。※

入居期間

入居した日から起算して5年以内とする。ただし、市長が特別な理由があると認めたときはこの限りでない。

使用料

月額 15,000 円とする。ただし、市長が認めたときの5年経過後の使用料は月額 37,000 円とする。

お問い合わせ先 大田市八坂支所産業建設係
電話番号：0261-26-2001



※農業研修とは、農業の実務を研修し技術を習得するため、新たに市内の農家又は農業関連の団体等で就業することをいう。

たけのこ保育園



2月1日(金)に保育園で豆まきをしました。遊戯室で節分についての話を聞いた後、子ども達がそれぞれ作った鬼を見合いながら、自分の中にいる鬼って何だろうと話をしました。お腹の中の自分の鬼(泣き虫鬼、怒りんぼ鬼など)を豆を食べて追い出した後、外に向かって「鬼は外! 福は内!」と元気に豆をなげました。



14日(木)にはお店屋さんごっこがありました。インフルエンザが出た為、地域の方のごっこ遊びができず、とても残念でしたが、園の中だけでお店を出しました。ホットケーキやアイス、おせんべいにおにぎりなど、その場で作ってもらったり、レストランで食べたりする他、沢山の品物を「これ、ください」と買っては手提げ袋に入れていました。全部100円でお買い得感いっぱいです。兄弟やお家の分も買っていた優しいお友だちもいました。



新雪で思う存分

今年は、雪の少ない冬になりましたが、前日までに恵みの雪が降り、グレンデはまっさらの雪が子どもたちを迎えてくれました。スキー場の皆さんも寸暇を惜しんで圧雪作業をしてくださったお陰で、ベストコンディションで1月18日(金)スキー教室が行われました。子どもたちはレベルごとに4つの班に分かれ、インストラクターの方と学校支援ボランティアの皆さんの支援をいただいで、講習の初めと終わりではどの子も見違える程の上達した姿を見せてくれました。

八坂小学校

薬物乱用はぜったいにだめ

5年生を対象とした「薬物乱用防止教室」が2月5日(火)に開催されました。「薬物・喫煙・飲酒の害を正しく理解し、未成年からの使用は依存症などを起こしやすく将来の健康に悪影響があることへの自覚を高める」ことを目的として、学校薬剤師である西村彦一先生に『薬物・喫煙・飲酒について』というテーマで、講演をしていただきました。

西村先生は麻薬取締官(麻薬Gメン)をされていた経歴をお持ちで、薬物乱用の危険性を十分ご存知な方です。

子どもたちは、食い入るように話を聴き、理解することができました。さらに、飲酒の危険性や喫煙による害についてお話しをしていただきました。



平成31年度 生徒会スローガン **Glocal Share**

八坂中学校



1月から、現2年生による平成31年度新生徒会がスタートしました。

スローガンは、「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する」という意味で、これを一人ひとりが意識しながら、地域・学校・生徒のために活動を進める中で出会ったものと互いにつながり思いを共有し、より良い生徒会を築き上げていきたいと願いを込めました。

そして、新しい試みも始まっています。『生徒会月目標』は、校歌から該当月に合う1字を選択して設定していくことになりました。

新生徒会長 小池隼さんから
H31 生徒会スローガンの発表

1月の月目標

夢

今年の目標を定め、夢の実現へスタートしよう

2月の月目標

凛

寒い中でも一人ひとり、凛として活動していこう

『VANリサーチ』は、全校生徒の考えや思い、意見を聴き、生徒会活動に生かしたいと願い、アンケートや聞き取り調査を実施し、金曜日の生徒会生放送『生徒会フォローアップボックス』で紹介しています。2学年がチームワーク良く新規企画を積極的に立ち上げて推進しています。

2月上旬、山も畑も雪の下で春を待っています。

12月に山から切り出してきたコナラなどの原木を1月中に割り、2月6日～7日にかけてセンターの前の土手にある炭焼き窯で炭にしました。2月6日の朝、窯の中へ薪をぎっしりと立てこみ、着火しました。火が回りはじめたら、入り口を塞ぎ、煙突から出る煙の様子を見ます。いざ、薪の立てこみを自分でやってみると、「薪を立てるだけでも（隙間が空いてしまって）難しかった」と、感想を言う子もいました。

子どもたちは、学校から帰ってくると、窯の前でおこした、火でお茶を飲んだりしながら語りあいました。夜も、代わる代わるの様子を見に来る子たちで炭焼き小屋は賑わいました。翌日の昼には煙の色が透き通って青みがかり、炭が出来上がって来た様子でした。子どもたちの下校時刻に合わせて窯を開け、1人1人交代で窯出しを体験しました。

少しずつ、外気に慣らしながら、慎重に炭を釜の外へ出し、湿らせた灰をかけて白炭にしました。炭をかき出す道具は鉄製で重いので、うまく扱わないと炭がボロボロになってしまいます。「もう少し奥からそっと引いて。…まだ、もうちょっと！」などと、声を掛けあい、作業を進めていきました。大人数で協力して作業したので、窯出しも素早く終わることができました。

明治以降、山村の冬の暮らしを支えた炭焼き文化を肌で感じた活動となりました。

いよいよ3月16日をもって、今年度の留学生は修園し、次年度も留学を継続する子以外は八坂の地を去ります。子どもたちは修園に向けて、悔いのないように毎日を精一杯過ごしております。今年度の32人の学園生たちがここまで成長することができたのも、地域の方々に様々な場面でご協力頂き、見守って下さったお陰です。本当にありがとうございました。

また、4月からは、新たなメンバーで八坂学園44期・美麻学園28期として歩みだしていきます。何卒よろしくお願い致します。



コミュニティ・スクールだより

おらほの学校やさか



地域で子どもを育てるためのコミュニティ・スクールの集い

12月8日（土）八坂公民館にて、八坂学校運営協議会主催、学校支援代表者会総務広報部企画・運営のもと、開催されました。荒井今朝一大町市教育長をはじめ、地域の方と小中教職員、保護者、今回はじめて中学3年生1名も参加し、37名の参加者で意見交換も活発に行われていました。

八坂小・中学校校長より、活動報告をしていただき、スライドから映し出される子どもたちの姿や声が流れてくると参加者から自然と笑顔がこぼれていました。

講演「地域とPTAが盛り上がるコミュニティ・スクール」は、中信教育事務所、生涯学習課 指導主事 中島章氏を迎え、資料とスライドを交えながら4グループに分かれグループワークも行いました。講師の先生から「八坂のみなさんの熱心な様子に感心しました。これからもやりっぱなしにせず、最後まで向き合ってもらいたいです。」と講評をいただきました。

これからも地域と学校、子どもたちが一体となり、笑顔にあふれた『八坂』を目標に、企画していきます。



八坂小学校の活動～楽しかったスキー教室～

1月18日金曜日、大町市爺ヶ岳スキー場にて小学校のスキー教室が行われました。

前日に雪が降り、当日は天気にも恵まれ、とても良いコンディションの中、行くことが出来ました。学校支援ボランティアからも（田中照幸さん（切久保）、塚田哲也さん（相川）、大山楽人さん（山留センター職員）、吉田敏之さん（野平）が指導員補助として参加してくれました。子どもたちは、気合充分、やる気満々で真剣に教わり、回数を重ねて滑っていくにつれて上手に滑れるようになっていました。初めてスキー教室に参加した子どもたちも最後まで笑顔で楽しむスキー姿が印象的でした。



今回はじめて参加した小学1年生の2人の感想をご紹介します。北澤幸祐くん（明野在住）は、「午前中にリフトにも乗れたし、スキーも楽しく滑れたよ！カレーもおいしかった！」、富山賢治くん（野平在住）は、「転んだけどリフトにも乗れてたくさん滑れて楽しかった！またスキーやりたい！」と笑顔で感想を言ってくれました。

子どもたちのたくましく、笑顔にあふれた姿に嬉しさを感じた1日になりました。

八坂公民館の活動

第39回 郷土かるた・もちつき大会

●かるた大会結果

【保育園の部】

がんばったで賞

吉田友祐
山口らひり
青山長史
谷林花梨
新山おと春
遠藤早人



【1～2年生の部】

1位 岡野亜美
2位 山口 みろく
3位 吉田歩未

【3～4年生の部】

1位 呉 京
2位 富山璃子
3位 阪田 響

【5～6年生の部】

1位 中里そよ
2位 北澤虹心
3位 西田せろり



八坂公民館と八坂地区子ども会育成協議会主催の新春恒例の「かるた・もちつき大会」を1月12日に八坂小学校で開催しました。この大会は前日の準備から当日の進行等を小学六年生が主体となり実施していますが、料理については八坂地区食生活改善推進協議会のみなさんのご協力もいただきました。

前日から準備しておいた12kgのもち米を4回に分けて杵と臼でつきますが、杵が重いのでフラフラしながらも元気についていきました。つき上がったもちからは食改のみなさんに教わりながら、きな粉や、すりゴマや、砂糖醤油をつけたり、雑煮にして、食べました。

「自分たちでついたおもちはとてもおいしい」と言って、大勢の子どもがおかわりをしていました。

午後のかるた大会は保育園、1～2年生、3～4年生、5～6年生の各部に分かれて、八坂郷土かるたと大町民話かるたを交互に使い、合計4回の取った枚数を競いました。みんな真剣な眼差しでかたるを囲み「ハイ！」と大きな声でかるたを取っていました。

39年前に始まった伝統あるかるた・もちつき大会を、今後も地域の方や、学校と協力しながら続け、子どもたちにふるさとの良さを伝えていきたいと思っています。

笹尾 平林 操さん

「善光寺木遣り師範」
(ぜんこうじきやりしはん)

木遣りと聞くと思い出すのが諏訪御柱ですが、もう一つの御柱ともいえる、同じく七年に一度御開帳となります善光寺の、前立本尊となる、回向柱です。松代より伐採された回向柱が曳航され、長野市の善光寺にたどり着くまで、その先頭役として善光寺木遣りが役を担います。

平林さんは出身地の松代で幼少の頃その曳航される御柱の先導役の善光寺木遣りに魅せられたのがきっかけだったとの事でした。

社会人となった後もその思いは消えず、大町の建設会社に勤めながら、なんとかならないかと思っていたそうです。しばらくして後、新聞に同じ建設業者の小林治男さんが善光寺木遣り師範に合格との記事に載っているのを目にし、長野市と小川村へ定期的に行われている教室に小林さんと通い始めたとの事でした。その頃は仕事に忙しくて合間を縫っての教室通いや四曲ある



「善光寺木遣り師範」の笹尾の
平林 操さんをご紹介します



「木遣り」先綱・小手子・大手子・鎌倉を覚える事に大変苦労されたとの事でした。その甲斐あって苦節十六年目にして見事師範に合格されました。平成27年1月に大系タイムス紙の記事となり、その年が善光寺の御開帳と重なったこともあり、NHKの「新日本風土記」に取り上げられる事となりました。

大町市のやまびこ祭に善光寺木遣りとしての参加や池田工業高校建築科への出前講座などで活躍され、格式と伝統ある善光寺木遣りの伝承の一助になればとの思いでこれから続けていきたいそうです。

お忙しい中取材に快く応じていただき
ましたことに感謝申し上げます。あ
りがとうございました。

取材
丸山
茂

編集後記

野平 佐藤 眞一

表紙に1月12日のかるたちつき大会の楽しそうな写真があります。餅つきも終わり、楽しみのお昼です。でも、事件は、すぐ近くで起きていました。

車が脱輪したのです。前輪が側溝に落ちてしまいました。何故かという、その日は「赤口」だったのです。

赤口とは、【赤口（しゃっこう）陰陽道に基づく凶日のこと。「赤口神」のもとに八鬼の鬼神がいて、人や生き物を惑わせることに由来する。】

でも、かるたもちつき大会に、自治会役員の皆様が朝早くから準備されており、救援要請に快く駆けつけてくれました。この場を借りて、ありがとうございました。

最後に、昨年4月より、編集委員として、原稿を依頼され、寄稿するのですが、推敲されて微妙に表現が変わり、面白く書いたつもりが、つまらなくなったりしていますが、これからもよろしく願います。

やさかだよりは、より多くの記事と写真を載せるため、字数の制限があり、表現等、変更する場合がありますが、やさかだよりの編集委員長の了承をいいただき発行しております。何卒ご容赦ください。

編集担当 八坂支所総務係